

岩手県立大学 令和7年度の主要な取組実績

1 全学的な取組

分野	計画の概要	実績の概要
教育分野	<p>教学 I R センターシステムを活用した各部局へのデータ提供の充実、より詳細な学修成果の把握とデータの提供に向けた教学 I R センターシステムと事務管理システムの連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教学 I R センターにおいて、学部・研究科等及び高等教育推進センターがアセスメントで活用する「授業に関する学生調査」、文部科学省の「全国学生調査」等を教学 I R センターシステムで実施し、学部・研究科等及び高等教育推進センターへデータを提供した。 ・ 令和6年度に学部・研究科等及び高等教育推進センターがアセスメント等に必要データを迅速に提供できるよう構築した仕組みを活用し、学部・研究科等が必要とするデータや情報の提供を行った。 ・ 教学 I R センターシステムの「授業に関する学生調査」の機能と事務管理システムのシラバスの学修目標との連携を図り、これまでより詳細な学修成果の収集を可能とした。 ・ 質保証・向上システム及び教育改善を推進するため、教学 I R を活用した教学マネジメント体制の強化を図ることとし、教学 I R センターを改編して教学マネジメントセンターを設置することを決定した。
教育分野	<p>大学院の教育研究に関する個々の研究科の枠を超えた横断的な取組の検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和6年度に設置した研究科検討ワーキンググループにおいて正規課程以外の教育の推進について前向きに検討するとされたことを受け、大学院における高度専門教育に社会人がアクセスしやすい取組等を促進するため、履修証明制度を創設した。 ・ 研究科検討ワーキンググループの会議を開催し、各研究科における定員充足に向けた取組の情報共有を図るとともに、各研究科において課題への対応を検討した。
教育分野	<p>令和6年度に策定した「岩手県立大学における多様な性のあり方を尊重するためのガイドライン」に即した相談支援等の推進、本学における具体的な対応等についての検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 岩手県立大学多様な性のあり方尊重委員会を開催し、取組状況について情報共有するとともに、全学的な支援体制の充実に向け、意見交換を実施した。 ・ 今後の取り組みの参考にするため、先進大学への訪問調査、全学生・全教職員を対象とするアンケート調査を実施した。 ・ SOG I に対する理解の促進と多様性の意識醸成を図るため、6月をプライド月間として設定し、ミニ講座を行ったほか、SOG I 研修会を開催した。
研究及び地域・国際貢献分野	<p>「岩手県立大学研究活動方針」に基づく、研究活動の環境や条件の整備に係る戦略策定と改善の推進</p>	<p>研究推進委員会において、協議・意見交換を重ね、各学部等からの意見を収集した上で、「研究環境の整備等に関する戦略」を策定した。</p>

研究及び地域・国際貢献分野	企業学群構想の推進に向けた大学発スタートアップの創出とアントレプレナーシップの醸成、学生と企業との交流の促進	<ul style="list-style-type: none"> 「みちのくアカデミア発スタートアップ共創プラットフォーム」のファンド事業である「みちのくGAPファンド」に採択された課題について、起業支援アドバイザーによる伴走支援を行ったほか、来年度の採択に向けて新規案件5件の申請を行い、うち1件が採択された。 ソフトウェア情報学部の授業で企業見学等を行う「キャリアデザインI」、ソフトウェア情報学研究科の授業で企業にて演習を行う「インターンシップ型連携授業」、産学協働による課題解決型学習「PBL (Project Based Learning)」などを実施した。
研究及び地域・国際貢献分野	地域防災支援などに取り組む学生団体「FROM」との協働による、防災・復興教育や防災訓練等の地域支援の推進	学生団体「FROM」と協働し、小中学校等での防災・復興教育への支援や地域の防災訓練等への参加、地域からの依頼対応、各種情報発信などに積極的に取り組んだ。
法人経営分野	電子決裁・文書管理システムの試行導入	電子決裁・文書管理システムを試行導入し、運用課題を整理の上、令和8年度から試行運用及び本格導入するための環境を整備した。
法人経営分野	広報戦略に基づく戦略的な情報発信を推進するための、令和5年度に策定したウェブアクセシビリティ方針に基づく公式ウェブサイトのリニューアルの実施	広報委員会やウェブサイトリニューアルワーキング等と連携し、プロジェクト計画やコンテンツ移行計画の確認、デザインやコンテンツ移行の検証を行った。
法人経営分野	ゼロ・カーボン化推進のための施設設備等の維持修繕及び更なる意識向上の取組の実施	<ul style="list-style-type: none"> ゼロ・カーボン化推進室及び学生団体等と連携し、キックオフイベント「ゼロ・カーボン祭」を開催し、学生団体による脱炭素化の取組紹介及びワークショップによる学生等の意識の向上を図った。また、更なる意識向上の取組を進めるため、他大学等の取組事例を学ぶイベントへ参加し情報交換を行った。 滝沢キャンパスの照明設備のLED化を進めるとともに、脱炭素化に資する施設設備の導入に向け、事業所訪問による事例研究等を行った。

2 各学部等における取組

(1) 看護学部・研究科の取組

計画の概要	実績の概要																																									
<p>1 看護職としてのキャリア意識の醸成を図り、学生の進路選択及び健全な就職活動を支援する。</p> <p>① 1～3年生を対象にキャリアセミナーを開催する。</p> <p>② 保健師、助産師、看護師、養護教諭等の職種別キャリアセミナーを適宜開催する。</p> <p>③ 4年生を対象に、就職支援ガイダンスを開催する。</p> <p>2 在学生・卒業生のキャリア形成支援及び県内就職促進（Uターン含む）の推進を図る。</p> <p>① 県内で開催される就職・進学セミナー、インターンシップ等の開催情報を在学生や卒業生に随時情報提供する。</p> <p>② 卒業生の公式LINE登録者の増加を図るため、卒業見込み学生へ登録促進を働きかける。</p> <p>③ 学部教育との連携を図りながら、キャリア形成の促進を支援する。</p> <p>3 県内の行政機関や保健医療福祉機関等の関係者と協働し、県内の看護職員の確保・定着の推進を図る。</p> <p>① 県保健福祉部や医療局、県内各保健医療機関との会議等を定期的に設け、学生のニーズを考慮した各保健医療機関等の魅力ある職場紹介や職場体験事業等を実施する。</p>	<p>1について</p> <p>【開催状況】</p> <table border="1" data-bbox="1137 331 2110 791"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>対象</th> <th>支援活動</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">4</td> <td>3年</td> <td>第1回 キャリアセミナー</td> <td>84名</td> </tr> <tr> <td>4年</td> <td>就職支援ガイダンス</td> <td>87名</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>2年</td> <td>第2回 キャリアセミナー</td> <td>16名</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>3年</td> <td>就職関連情報の配布 進路志望状況の把握</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>1-3年</td> <td>秋のオープンキャンパス 看護学部キャリア支援紹介</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>1-3年</td> <td>キャリアセンター 秋のキャリアセミナー（合同説明会）</td> <td>延24名</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">1</td> <td>1・2年</td> <td>第3回 キャリアセミナー（職種別併催）</td> <td>9名</td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td>第4回 キャリアセミナー</td> <td>70名</td> </tr> <tr> <td>4年</td> <td>就職に関するアンケート</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>1-3年</td> <td>キャリアセンター 春のキャリアセミナー（合同説明会）</td> <td>延4名</td> </tr> </tbody> </table> <p>2について</p> <p>在学生に対しては、キャリアセンターと連携し、就職ポータルサイトやメーリングリストにて随時情報提供した。学部内教員との連携も図りつつ、キャリア形成支援に向けた取組を実施した。卒業生に対しては、看護学部公式LINEアカウントから随時発信し、卒業生のUターン促進、県内就職促進を図った。（令和7年4月～令和8年1月末 発信件数 63件 月平均6.3件）</p> <p>看護学部公式LINE登録者拡大に向けた取組としては、卒業予定学生への登録呼びかけや看護学部同窓生に対して郵送での登録案内を行った。また、大学・学部HPや学部InstagramとリンクしたリッチメニューをLINEへ付設し、卒業生のキャリアアップにつながるような情報発信にも努めており、LINE登録者数の増加が図られている。（令和8年1月末現在登録者：409名）</p> <p>3について</p> <p>岩手県医療局との意見交換会を1回開催し、本学部の就職支援活動や医療局における職員確保・人材育成等の現状や課題等について意見を交わした。その他、県本庁や県内自治体等が行うインターンシップやボランティア等の</p>	月	対象	支援活動	参加人数	4	3年	第1回 キャリアセミナー	84名	4年	就職支援ガイダンス	87名	7	2年	第2回 キャリアセミナー	16名	8	3年	就職関連情報の配布 進路志望状況の把握		10	1-3年	秋のオープンキャンパス 看護学部キャリア支援紹介		11	1-3年	キャリアセンター 秋のキャリアセミナー（合同説明会）	延24名	1	1・2年	第3回 キャリアセミナー（職種別併催）	9名	3年	第4回 キャリアセミナー	70名	4年	就職に関するアンケート		2	1-3年	キャリアセンター 春のキャリアセミナー（合同説明会）	延4名
月	対象	支援活動	参加人数																																							
4	3年	第1回 キャリアセミナー	84名																																							
	4年	就職支援ガイダンス	87名																																							
7	2年	第2回 キャリアセミナー	16名																																							
8	3年	就職関連情報の配布 進路志望状況の把握																																								
10	1-3年	秋のオープンキャンパス 看護学部キャリア支援紹介																																								
11	1-3年	キャリアセンター 秋のキャリアセミナー（合同説明会）	延24名																																							
1	1・2年	第3回 キャリアセミナー（職種別併催）	9名																																							
	3年	第4回 キャリアセミナー	70名																																							
	4年	就職に関するアンケート																																								
2	1-3年	キャリアセンター 春のキャリアセミナー（合同説明会）	延4名																																							

	<p>情報提供を受け、随時在学生へ紹介するなどして、関係者と協働した県内就職推進を図った。</p>
<p>協定校であるワシントン州立大学（WSU）、ノースカロライナ大学ウィルミントン校（UNCW）、プリマス大学との交流を継続し、派遣と受け入れ、及び協働研究の具体的な計画を進めて大学間交流の発展を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ワシントン州立大学（WSU）での研修への学生派遣を継続する。 2 ワシントン州立大学（WSU）の教員と学生の研修受け入れの体制と内容を検討する。 3 ノースカロライナ大学ウィルミントン校（UNCW）との学生派遣及び受け入れの具体的な計画を検討する。 4 プリマス大学とのオンライン交流を継続する。協定校との共同研究を継続し、学会発表及び論文投稿を目指す。 	<p>1 について</p> <p>WSU海外研修について、令和8年2月～3月にかけて、昨年度同様10泊12日の期間で学生6名、引率教員2名が参加した。前年度参加学生による研修後評価を踏まえ、米国の看護に関する事前学習及びWSU教員・学生との事前交流の機会を設けたほか、研修開始前に昨年度参加学生との交流機会を設けたことで、研修内容のイメージにつながり学びの充実を図ることができた。また、教育支援室と協議し、現地での通信環境の整備や引率教員の経済的負担が軽減されるよう、予算的措置の強化を行った。</p> <p>2 について</p> <p>今年度のWSU海外研修には、国際交流委員長が引率教員として参加し、WSU教員らと今後の交流の発展や来日予定等について建設的な意見交換を行った。今後学部として研修受け入れ体制の検討を進めるための参考となった。</p> <p>3 について</p> <p>昨年度にUNCWを訪問した教員を中心に、教育支援室の支援のもと、UNCW側と学部間協定締結に向けた協議を進めるとともに、研修受け入れ時に見学可能な施設のリストアップを行った。また、研修受け入れに関するフロー整備を進めた。</p> <p>4 について</p> <p>令和8年3月に、プリマス大学2年次生3名と教員1名、本学助産学生6名と教員4名の計14名が参加し、オンライン交流会を開催し、両国の助産学教育など相互理解を深めることができた。</p> <p>昨年度のWSU海外研修における引率教員による取り組みが、WSUとの協働研究として全学競争研究費に採択された。</p>

(2) 社会福祉学部・研究科の取組

計画の概要	実績の概要
<p>APに基づく入試制度を実施する。入試制度の検証と改善を検討する。入学者数が大学評価基準の基準を満たすようにする。志願者確保に向けた取り組みを実施し、その在り方について検討する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和8年度総合型選抜において「講義理解力試験」を実施し、実施体制及び実施内容（「講義理解力試験」への受験生の反応）について検証した。

<p>【具体的な手順・方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和6年度に続き総合型選抜における「講義理解力試験」を実施し、入試検討部会にて実施体制及び実施内容についての検証を行う。 令和6年度に続き、「大括り入試」を実施し、「大括り入試」の広報に努める。 「講義理解力試験」及び「大括り入試」についての受験生の反応を確認し、入試実施の内容について検討を行う。 	<p>総合型選抜入試担当者の振り返りにより、採点割合（面接：講義理解力試験）を6：4で実施する提案がなされた。また、配慮が必要な受験生への対応と「講義理解力試験」導入後の学生を評価する手続や「講義理解力試験」の担当者選出手続確認の必要性も提示された。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「大括り入試」については、オープンキャンパスや事務局入試グループ特命課長の高校訪問等を通して「大括り入試」の広報を高校生及び進路指導担当等の高校関係者へ実施した。
<p>これまでの担任と学生委員会の役割を再整理し、学部全教員で共通認識を持つとともに、学生にも周知する。</p> <p>【具体的な手順・方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和7年度から教員に提示された「学生対応のしおり」を活用して、担任及び学生委員会の役割や学生支援に関わる制度、支援のフローについての教員間認識の統一を、新任教員にも促す。 欠席過多等で本人と連絡も取れず保証人通知を出す、その後も改善が見られない学生の対応について学生委員会にて検討を行い、保証人通知後の対応のフローを構築する。 「卒業年次生アンケート」「新入生アンケート」「2年次アンケート」結果を基に学部として対応していく必要がある課題について検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学生対応のしおり」を学部サーバーに保存し、学部教員へ内容の確認と活用を周知した。 連絡が難しかった過年度生やその保証人に対して、学生委員会・担任が継続的に働きかけた結果、連絡が取れるようになり、修学相談を通じて適切な対応を行うことができた。

(3) ソフトウェア情報学部・研究科の取組

計画の概要	実績の概要
<p>教育課程改訂に伴うカリキュラムを年次進行にしたがって実施する。特に、以下の点について重点的に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科「数学」の教職課程の完成年度となるため、履修状況や就職動向を注視して課題を整理する。 教科「情報」の教職課程を履修する新入生の状況を注視しつつ、新学習指導要領の情報教育改訂を踏まえた教育内容の見直しを検討する。 令和6年度に完成したプログラミング科目を継続的に実施・改善する。 令和7年度からの学部1・2年生のキャリア教育科目の見直しに伴 	<ul style="list-style-type: none"> 教授会等で教科「数学」の履修状況を共有しながら、教育課程のカリキュラムを年次進行にしたがって実施した。教科及び教科の指導法に関する科目を構成する科目については、その科目の妥当性を検討した。 教科「情報」に関する教科書や副読本、教員採用試験対策本等を収集した。加えて、全国高等学校情報教育研究会全国大会や県内高校訪問の結果などから高校における情報教育の現状を確認し、教育内容の見直しを進めた。 複数のクラスルームを用いたプログラミング科目の分散開講を実施した。また、現プログラミング科目の課題点を整理し、次期プログラミング科目の検討に着手した。

<p>う、コミュニティ形成のためのクラスルーム活用を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学部と大学院の科目連携（早期履修制度、リサーチリテラシー等）を継続・改善する。 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度からのキャリア教育科目実施に係る準備を進めた。クラス内のコミュニティ形成を考慮した授業運営を行い易くするための検討もを行い、クラスの数を分割し易い数に調整することとなった。 早期履修制度等、学部と大学院の科目連携を継続しつつ、早期履修申請のシステム化に向けての仕様を検討した。また、学部生と研究生を対象に課外で実施していた海外研修を、次年度から正規科目とすることとし、その準備を進めた。
<p>地域企業、自治体や小中学校・高校との連携を促進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業学群の活動と連携したインターンシップ型授業の継続等、地域企業と学生の接点を増やす教育研究活動を促進する。 県内の小中学校・高校における情報及び数学関連授業の取り組みを継続する。 サイエンスキッズ等の小中学生向け公開講座を継続する。 教科「情報」について、大学入学共通テストの問題や高校教員からの聴取に基づき、個別試験での実現可否を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップ型連携授業を継続・拡張し、滝沢市IPUイノベーションセンターの企業6社の協力を受け、8月中旬に5日間の集中講座としてインターンシップ型の連携授業を実施した。受講生は30名（大学院生10名、学部生20名）で、その様子は岩手日報（令和7年8月25日）の記事としても紹介された。 協定校とのオンライン授業、協定校のOB・OGの在生を活用した対面授業、ウィンターセッションなどを継続実施した。8月上旬に実施した高校生向けのサマーセミナーでは、合計44名の高校生が参加した。アンケート結果には、「難しかったが理解できた」、「自分に合った内容だった」が多く含まれていた。 公開講座として、小中学生向けのサイエンスキッズ&ジュニアを実施し、計31名の小中学生が参加した。アンケート結果は、難易度は「やや難～丁度良い」が多い傾向にある一方、参加した小中学生の大多数が「とても楽しい」と回答していた。 他大学における大学入学共通テストの「情報I」の活用状況や、高校における指導體制の整備動向を踏まえ、令和10年度入試から学校推薦型選抜において教科「情報」を選択問題として導入することとし、試験導入に向けた準備を進めた。

(4) 総合政策学部・研究科の取組

計画の概要	実績の概要
<p>【研究科アセスメントと研究科広報】 令和6年度に続き、研究科次期カリキュラム改訂を策定する。併せて令和7年度の入試の変更を広報する。セカンドキャリア教育プログラムの策定・実施をする。</p>	<p>① 令和8年度開始の研究科カリキュラムを策定した。 ② 今年度は告知期間が短かったため申込者はいなかった。当初から本格的開始は新カリキュラム開始後の令和8年度を予定しており、試験的実施の今年度の反省点を踏まえて、来年度に向けた準備を進めている。令</p>

<ul style="list-style-type: none"> ① 令和8年度に実施する研究科次期カリキュラム改訂を策定する。 ② ビジネススキルアップコースを開講するとともに、令和8年度のプログラムを策定する。 ③ アセスメントを継続する。 ④ 新カリキュラム、募集要項(入試)の情報をまとめ、わかりやすい形でホームページ、ポスターで示す。 	<p>和8年度は分野の異なる2コースとして、ビジネススキルアップコースとEBPM特別研修コースを開講することとし、2プログラムで履修者を募集したが、結果は応募者がいなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ③ 令和6年度のアセスメント結果報告書を9月研究科委員会において審議した。 ④ 研究科のホームページについて、古い項目・情報を削除した。また、全体の構成も見直し、全面的に刷新した。
<p>【学部アセスメントとカリキュラム改訂】 次期カリキュラムの内容を決定するとともに、DP及びアセスメント・ポリシーを改定する。また学生の就職支援としてのPROGテストとGPSアカデミックの比較を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 学部将来構想委員会最終報告案を基礎としてカリキュラム改訂部会を設置し、次期カリキュラムとDPの改定内容を決定する。 ② DPの改定内容に合わせ、アセスメント・ポリシーを改定する。 ③ アセスメント・ポリシーの改定内容に基づき、アセスメント重点化の今後の長期的な展望や年度実施計画等を検討する。 ④ 今後の中長期的なアセスメントの実施において必要となる、アンケート調査等のデータの見直し作業に着手する。 ⑤ PROGテストとGPSアカデミックの教員講習会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①～④ 学部カリキュラム改定部会を4月に設置し、改定に向けた準備を進めつつある。ただし、現カリキュラムの問題点への対処の方策を議論・検討するため、次期カリキュラムは令和9年度からの導入を目指すこととなった。年度末の時点では、カリキュラムの全体設計やDP・アセスメント・ポリシーの改定方針に加え、各科目群や必修科目の在り方の見直しといった、カリキュラム改定の内容の大枠をある程度固めることができた。それらを踏まえ、来年度前半に次期カリキュラム、DP、アセスメント・ポリシーの改定内容の詳細を決める。 ⑤ 7月16日開催のFD「PROGテストに係る報告会」において、参加者の評価が芳しくなく、今後の教員の活用も期待できない(複雑で分かりづらく、学生指導に活用しにくいなどの意見があった)等の理由により、来年度のPROGテストとGPSアカデミックの教員講習会を実施しないこととした。

(5) 高等教育推進センターの取組

計画の概要	実績の概要
<p>『部局個別計画1-3 <u>英語外国語教育・2つの副専攻教育及びデータサイエンス教育の点検・評価</u>により、理念や実態に則した教育体制の整備を必要に応じて実施する。』について、以下の4点を重点項目とし、令和6年度の成果・課題を踏まえた取組を進める。</p> <p>(1) 英語カリキュラム検討WGによる調査で収集されたデータについて、FD・教学IR等運営WGにおいて共有し、現在の英語カリキュラムの成果検証や課題抽出を行い、令和7年度中に、<u>次期英語カリキュラムの素案を学内関係部署との連携により検討する。</u>(関連：高セ4)</p>	<ul style="list-style-type: none"> (1) 令和10年度に予定される基盤教育改編に合わせた次期英語カリキュラム改編の方向性に基づき、令和8年度よりeラーニング科目の活用の拡大、並びに高年次英語科目「応用外国語G」の導入を決めた。 (2) 国際教養教育プログラムにおけるルーブリックの活用方針を新たに定め、令和8年度より適用することを決めた。継続的・段階的な学びがルーブリックの運用により可視化することにより、プログラム期間全体を通じた能力育成に関して一貫した評価を可能にした。 (3) 国際副専攻運営WGを本センター内に新たに設置し、教務FD委員会、FD・教学IR等運営WGと連携の上、国際教養教育プログラムの

<p>(2) <u>国際教養教育プログラム関連科目でのルーブリックの運用</u>を拡大し、「評価の見える化」を一層促進する。(関連：高セ3、11)</p> <p>(3) 国際教養教育プログラムについて、令和6年度開始の新カリキュラムの点検・検証を行い改善課題の収集に努める。</p> <p>(4) <u>データサイエンス教育プログラム</u>については、令和7年度は外部の専門家の意見も伺いつつ、各種アンケートや外部テストのデータ分析を踏まえ、これまでの成果と問題点を明らかにし、<u>次期カリキュラム改編に向けた検討を開始</u>する。</p>	<p>点検・検証並びに改善を組織的に行う体制を確立するとともに、課題収集（プログラム全体の設計、科目群の構成、個別科目の教育内容など）に着手した。</p> <p>(4) 令和7年6月に実践教育研究部において実施した外部専門家との意見交換会の結果、並びに「大学で学ぶ・大学を学ぶ」（1年次必修科目）において実施したアンケート結果等を踏まえ、令和8年度より「課題解決型データサイエンス教育プログラム」の設置を決めた。</p>
---	--